

令和5年度 第2回栗東市市民参画等推進委員会

- 日 時 令和6年3月9日（土）15：15～16：45
- 場 所 コミュニティセンター大宝東 小会議室
- 出席者 新川委員長、川邊副委員長、村田委員、石橋委員、太田委員、池田委員、宮川委員、多々良委員、西川委員、平岡委員
市民部：西村部長
自治振興課：山本課長、大西課長補佐、谷村主査、中村主事補
- 欠席者 幡委員

議事記録（概要）

1. 開会 進行：自治振興課長
2. 市民憲章昭和
3. あいさつ

（委員長）

土曜日のお忙しい中、お集まりいただき感謝する。先ほどそれぞれの成果発表とポスターセッションで皆さんの活動を見ることができ、改めて市民の活動が定着していると実感した。2年目、3年目、着実に活動を続けていただいているということも実感した。加えて、それぞれの活動を長い間、地域の中で、いろんなご苦労もありながら続けてこられていることも、改めて感服した次第である。栗東の地に市民の皆さんの活動の文化やそうした活動自体がいよいよ根づいてきたということを改めて実感をさせていただいた成果報告会、ポスターセッションだったと思う。お話を聞いて、それぞれにお金のことや人材のこと、活動を広げていく上での様々な障害など、いろんな悩みがあった。そういうものに、立ち向かっていかないといけないということをお話いただいた。しかし、活動の中でのやりがいとして、本当にたくさんの人に喜んでいただいて、それが自分たち自身の喜びにも繋がっているということも合わせて、しっかりと感じ取っておられるということを私自身も感じた。こうした市民の活動、市民と市民が相互にお互いに支え合う、そしてそれを、行政も企業も含めて、みんなが応援をしていく。そんな仕組みが、栗東の中でもっともっと進んでいくと、栗東市はさらにもっともっと住みやすくなっていくのではないかと思いながら参加させていただいた。この委員会では市民参加、協働を進めていこうという委員会ではあるが、何よりも、市民の皆さんの力というのが、市民参画や協働にはとても大きいということで、あえてこうした市民の方々の活動に大いに期待をしてご挨拶の言葉に代えさせていただく。

(部長)

本日、委員の皆様には大変ご多忙の中お集まりいただきまして、感謝申し上げます。今年度、活動支援を行って参りました元気創造まちづくり事業と未来へつなぐ市民活動応援事業の実施団体による成果報告会を、先ほど開催させていただき、6つの団体からの活動報告に大変元気をいただいたところである。本日の報告事項としましては、行動計画に基づく今年度の取り組み実績や次年度予定している市民参画と協働によるまちづくり推進条列行動計画の改定のため実施したアンケート結果などについて報告させていただく。委員の皆様においては、幅広い見地から、忌憚のないご意見を賜るようお願い申し上げます。結びになるが、今年度においては、本市市民参画と協働によるまちづくりの運営にご尽力いただき、感謝申し上げます。来年度も引き続き、お世話なるが、どうぞよろしくお願いする。

4. 栗東市市民参画等推進委員会の公開について

5. 報告事項 進行：新川委員長

○令和5年度実施事業実施報告について・・・〈資料1〉

(元気創造まちづくり事業、未来へつなぐ市民活動応援事業)

…資料1に基づき事務局より説明

(委員長)

先ほどの説明の中で、新規団体からの申請はなかったが、相談はあったとおっしゃったが、具体的にどういった相談でどのような支援や手助けがあると次の団体活動につながっていくと考えられたか。関心があったため、事務局でお聞きになられた範囲で教えていただきたい。

(事務局)

先ほど団体を立ち上げる前の段階での相談と申し上げたが、実際には大学生が一人で相談に来られた。「地域のために何か立ち上げて貢献したいと考えているが、まだ何がしたいかまでは決まっていない」という相談であった。自治振興課の制度としては団体向けのものであるため、仲間を見つけてほしいことが少しでも決まってきたら制度の紹介や活動のサポートができると案内した。また、年度をまたぐような相談とも申し上げたが、それは桜に関する活動をしたいとのことであったが、桜の時期が3月、4月と年度をまたいでしまう。制度としては年度で実績報告書を出していただくことになるため、一度3月で区切りをつけていただくことで活用していただけるというような案内はしたが、年度末に活動の区切りをつけることに難しさを感じておられた。なかなかご相談に応じた案内が難しい内容であったため、事務局としても今年度の反省を踏まえて、次年度以降も相談を受け付けたいと

考えている。

（委員長）

色々な地域の活動をご覧になって、自分も活動してみたいがどんなところから入っていけばいいのかわからない、また、一人でもできることがないかと思い悩んでおられる方もいらっしゃるかもしれない。ボランティアや地域の活動の入り口になるような講座や啓発の機会があるといいかもしれない。

（委員）

ボランティア市民活動センターを運営する中で、ボランティアも年々高齢化している。個人で何かしたいとのことだったため、ボランティア市民活動センターにお声かけいただけたらできることもたくさんある。若い人の思いを受け止めて、個人の場合はぜひボランティア市民活動センターへお声かけをお願いします。

（委員長）

ボランティアセンターではいろんな活動を受け止められているはずであるため、市がそういった連絡の窓口にもなって、連携していただけたらと思う。

（委員）

一人で何かしたいという方が潜在的に多いかもしれないという話が出ているが、そういったボランティアをマッチングするイベントをしておられるところがあるため、参考にしてみたらどうか。何かしたいけど何がしたいかわからない人大歓迎みたいな形で、ボランティアと何かしたいと思っている団体を呼んでマッチングテーブルみたいなことをするのはいいかもしれない。人にもよるとは思うが、最近は1つの団体に入り込んで活動するのはしんどいが、自分に時間があつた時に少し参加するのならいいという方もいると思う。そのあたりも見ながら、マッチングイベントがあると楽しいかなと思う。

（委員長）

栗東市ではマッチングのイベントはしていなかったか。

（委員）

ボランティアの交流会はある。

（委員長）

初めての人の入り口になるようなイベントがあるといいかもしれない。

(事務局)

協働事業提案制度では企業や団体が市と何か一緒にしたいというお声があればマッチングさせていただくという制度の中で進めているが、先ほどの個人に対しての対応はできていない。大学連携で龍谷大学と連携を進める中で学生と市とのマッチングのようなものがないかという話も出ているため、そういった部分に踏み込んでいきたいと思っている。また方向づけができれば紹介させていただく。

(委員長)

色々な新しい活動が一人ひとりの市民から始まっていくといいと思う。

(副委員長)

ボランティア市民活動センターはなごやかセンターの玄関入った左側か。

(委員)

入って左にある。

(副委員長)

生活支援協議会は同じところか。

(委員)

ボランティア市民活動センターの所長が兼務で事務局をしているが、社協に連絡してくださってもおつながりできる。

○令和5年度栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画における各課取組実績について・・・〈資料2〉

…資料2に基づき事務局より説明

(委員)

「中間支援組織の育成・支援及び組織体制の充実」とあるが、栗東市でも中間支援組織の設立や強化を検討しているという理解でよいか。

(事務局)

具体的に中間支援組織を設立するという形ではない。既存の組織を充実させるということで、栗東市で位置づけているのが、ボランティア市民活動センターと9学区にあるコミュニティセンターであり、中間支援組織として動いていただけるよう強化していきたいと思っている。今年度はそれぞれの職員に市民団体向けの研修などにも出席いただいた。来年度

についてもコミセン職員やポラセン職員には研修に参加していただいたり、意見交換や情報共有を図っていきたい。栗東市では自治会や地振協に関わる事務局や相談の受付を各コミセン職員が担っているため、各学区の状況などを意見交換し、助言や事務的な手助けをしていけないかとも考えている。新たに発信場所になるセンターを設けて職員をつけるのではなく、既存の組織の充実を考えている。

(委員)

意見交換をされる中で、関係者からの課題意識として代表的な意見があれば教えていただきたい。

(事務局)

コミュニティセンター長会議を毎月しているが、その中で自治会や地振協の担い手不足や役員を受けるのをきっかけに退会するなどの話が多く出ている。コミュニティセンターの職員としてどのような助言ができるかなど話し合いを進めている状況である。地振協の担い手がいない、自治会からの推薦がないなど話が大きくなってきているため、コミセンとしても問題意識を持っている。どんな改革ができるか、他市町の取組を各センターで調べて発信したり、自治振興課から提案したりしている。ただ、あくまでもセンター長会議であるため、副センター長やセンター員も交えて話し合えてはいない。そのままだと一体的な取り組みはできないと思うため、センター長以外にも働きかけていきたいと思っている。

(委員)

コミュニティセンターは地振協などが主な支援対象で、ボランティア市民活動センターがボランティア活動など地縁的ではなく市民が自主的に集まった活動をサポートしているというすみ分けでよかったか。また、それぞれどれくらいのスタッフ数で回しておられるのか。

(事務局)

そういったすみ分けでよい。スタッフ数はコミュニティセンターが9学区の各学区にあり職員が3人ずついる。ボランティア市民活動センターも3人である。

(委員)

先ほどの学生の話などでもある通り、現在の体制だと抜け落ちてしまっていて、支援が十分に行き届いていない分野や人がいるような気がする。相談に行くような方はすでに活動しておられたり、比較的高齢な方が多かったりする。若い人で何かしたいけどまだ動けていなかったり、相談までなかなか行けなかったりする人は多いのではないか。

もう一つがいわゆるコミュニティビジネスのような手法を使って、地域を元気にしよう

というような活動をしておられる団体にとって支援を受けたりや相談をしたりするところが栗東市にはないのかもしれないという印象を受けた。

前者の話で行くと、何か相談を待っているだけではなく、どんどんニーズを掘り起こして、活動として形になるように能動的に仕掛けていくのもある程度必要なのかとも思った。栗東市や関係している方々が栗東市のまちづくりや市民参画をどのようにしたいかにもよるだろうが、総合的に支援が担えるような体制を少し検討されるのもいいのではないかと思う。

（事務局）

先ほど龍谷大学と連携している話をしたが、連携の中で、市職員が授業に入りファシリテーターをしているが、それが1年限りで大学生との繋がりが途切れてしまっている。大学の先生も後押しはしてくれているが、軌道に乗れていない。今年度は動画やチラシの作成を学生にいただいたが、来年度にも続くようなつながりができていない。そこをつなげていくために、人事課や政策調整課と協議を進めている。単年度だけのつながりでなく、次年度やそれ以降にも栗東市に関わってもらえる企画を考えないといけないと思っている。先ほど話に出ていたマッチングについても学生が何かしたいと思ったときに市の審議会への参加を促したり、広報課が動画配信に力を入れていく中で学生に関わってもらったり、受け身ではなく、呼びかけていきたい。

もう一つ考えられるのが、例えば運動会などの後押しをするようなサークルから企業のような体系をとっているようなところが栗東市内や草津市、守山市にも営業活動に来られることがある。以前いた施設では高齢者の健康づくりの取組に協力いただいた。その団体がいきなり飛び込みで交渉に来られてつながったが、それも窓口がなく色々な施設に飛び込みで行っておられた。協働のまちづくりの連携方法の1つとして声掛けをしていただいて、マッチングを探すということをしていかないといけないかもしれない。

今ご指摘いただいた部分については内部でも課題だと感じているところで、再認識したため、色々な課を巻き込んで調整していきたいと思う。

（委員）

大学との連携というのは、私自身も色々な地域と授業や講義で協力いただいているが、まさしく単年度で切れてしまっていて課題に感じているところである。おそらく多くの大学教員が悩んでいるところであると思う。あと龍谷大学の社会学部は今度京都に移ると思う。大した距離ではないのかもしれないが、特定の大学と密接に連携していくことももちろん必要であるが、また他の滋賀県内の大学とも全方位的に連携を深めていくのもいいかもしれない。それぞれの大学に地域連携を専門にした組織があるため、こういったところから何か連携を深めていかれるのもいいかもしれない。

(事務局)

会議の中でも、龍谷大学だけでなく、滋賀県内の他の大学にも関わってもらいたいという話は出ている。

(委員長)

滋賀県の大学はコンソーシアムを組んで活動しておられるため、そういったところとしっかり連携されるとまた新しい可能性があるかもしれない。いろいろと検討していただきたい。

(副委員長)

龍谷大学の話が出ているが、治田学区の大槻大社のみこしを担ぎに龍谷大学の学生15人くらい来てくれている。それも単年度ではなく、続けて若い人の力を取り入れていけたらいいと思う。他の大学にも頼んだことがあるが、学外の業者に委託しているからバイトの紹介をしていないと言われた。

(委員長)

今後の課題についても色々意見があったが、特に中間支援に焦点が当たったかと思う。もちろん支援団体の発展を推奨していくことも大切であるが、栗東市として中間支援の機能や働きをネットワークし、情報交換を密接にすることで、色々なニーズが集まってくるようにしていき中間支援を充実させるということも大いに考えられる。ボランティア市民活動センターやコミュニティセンターの役割を確立し、先ほど話に出ていた大学や外部の様々な団体が市外も含めてつながっていけるようなネットワークを意識していただくとこれからのまちづくり、地域づくりの活動に随分と役に立つのではないか。そのあたりを少し意識して次年度も取り組んでいただけたらと思う。

○栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画策定のための各種アンケート結果について・・・〈資料3〉

…資料3に基づき事務局より説明

(委員)

アンケート結果を見ていると、返送はしているが無回答が多いように思ったが、そのあたりはどう思っているか。

(事務局)

全て空欄で返送しているというわけではないため、市民や団体にとって答えにくい設問があったのかと思う。協力的に返送していただいているため、検討の結果、無回答だったの

かと受け止めている。

(委員)

市民団体アンケートの回収率が高いように思うが、市民アンケートの回収率が低いのではないか。

(事務局)

市民アンケートについては、同時期に市の総合計画の市民アンケートを実施している関係で、毎回合わせて郵送している。そのため、設問数が多いと感じた方がいたのかもしれない。事業所アンケートや市民団体アンケートについては単独で郵送している関係で回収率が高かったのかもしれない。

(委員)

私もこの市民団体アンケートに回答したが、補助金制度について知っていたが申請したことはない理由として自分たちの活動で完結していて補助金は必要ないと回答した。折り紙であるためあまりお金も必要にならない。今年のはつらつ大学の要望で折り紙を教えに行った。生涯学習課と連携して開催しているが、たくさんの方が来てくださっている。自分の団体からは8人しか教えられる人がいないため、すごく大変だと感じた。教えることの大変さを学んでいるところだ。団体の先生が80歳になり、そのあとの人材をどう育てるかが課題で、解散も見えていたが最近若手が3人ほど入ってくれたため、何とか続けられるかと思う。生涯学習課と連携していけたらもっともって人が増えていくのではないかと感じている。

(委員長)

ぜひ補助金の活用も検討いただけたらありがたい。

(委員)

補助金については、今回生涯学習課が資金を準備してくれたため、それだけで満足している。

(委員長)

良い先生を育てるための資金も必要になるかもしれない。人材育成にも役立ててもらえたらと思う。

(委員)

自分の団体も申請して補助金を活用していたのは人を集めるためだった。補助金を使っ

て、外部の先生を呼んだりもできた。当初5～6人だったのが、最終30人を超えた。辞める人もいるが、また入っただけしている。人材の育成にも役に立った。

(事務局)

アンケートを見ていただいて色々な意見があると思うが、このアンケート自体は来年度計画を見直すための元資料として使っていくことになる。今見て思った意見はもちろん、事業所へ委託して計画を見直していく中で感じた意見も出てくるかと思う。見直しの際には色々ご意見をお願いしたい。

○令和6年度募集協働事業提案制度について・・・〈資料4〉

…資料4に基づき事務局より説明

(委員長)

今回どのような変更があったか。

(事務局)

今回大きな変更はございませんが、連携支援型を創設する際、市民参画と協働によるまちづくり推進条例施行規則を見直す中で、審査委員から市職員を除かせていただいた。そのため、令和6年度の募集からも「市職員」という文言をのぞかせていただいた。

また、この協働事業提案制度の自由テーマ型が長いこと申し込みがなく、連携支援型を創設して事業を開始したが、今年度締結したところはない。先ほど3団体問合せがあり、2団体と調整中だと報告したが、そのうちの1つが健康診断などを行っている会社で今まで企業との関わりばかりだったため、地元根差した地域との取り組みを考えたいとのことで協働したいとおっしゃっていた。その関係で関係各課へ声掛けをさせていただいているが、市職員自体に協働事業提案制度が浸透しておらず、後ろ向きの意見もあった。一方で、直接話したいと前向きな意見もあり、携わる職員の思いの違いか考える。

例年7月から元気創造まちづくり事業、未来へつなぐ市民活動応援事業、協働事業提案制度自由テーマ型を募集するが、募集をする前に関係のある職員にもっと理解を深めていただく必要があると感じている。令和5年度は11月に職員研修を実施したが、令和6年度は6月や7月にコミセンやボラセンも巻き込んで実施し、7月からの募集に向けたと思っている。

先ほど生涯学習課と連携して事業を進めてという話があったように、もうすでに協働事業を進めておられて自治振興課へ相談に来られないという例もあると思うが、職員の意識を変えて勢いをつけたいと考えている。

(委員長)

なかなか協働事業提案制度については何年間か苦戦を強いられており、どうしようかと工夫をしてきているが、もしかすると、連携支援型が伸びてくるかもしれない。1件2件から伸びていく可能性は感じるが、足りないのはセールスだと思うので、それを盛り込んでいくと民間団体や事業者、関係団体が栗東市に関わっていかうと思ってもらえるかもしれない。そのあたりも検討していただきたい。民間がいろいろな可能性を持っている。今こういう時代であるため、企業の社会的責任ということもあるし、色々な目線で改革しないといけないのが民間の課題である。そういう点で行政と一緒にできる貴重な機会ということで必要とされているかもしれない。しかし、具体的な手掛かりがないという現実もあるかと思う。行政側からのアプローチについても検討いただけたら世界が広がるかと思う。1つ良い例が生まれそうであるため、期待をして育てていくといいと思う。

自由テーマ型について、今後どうしていくのか今考えていることがあれば教えていただきたい。次の委員会で報告ということであれば、それでも良い。

(副委員長)

走井自治会が色々な活動をしているが、あれは自治会独自でしているのか。

(事務局)

こちらも独自で進めておられるので、自治振興課の制度は関わっていない。すでに実施しておられて、軌道に乗っている事業を制度に載せるのは難しい。

(委員)

過去に行政側から市民団体に一緒にしませんかと提案するようなものがなかったか。

(委員)

行政側からのアプローチはあまりなかったように思う。私は最終的には協働を担当する課が動かないと協働ができないのではなく、それぞれの担当で協働が回るようになるのが目標だと思う。今進んでいるところは温かく見守りつつ、協働担当課として良いモデルだとPRするくらいでいいと思う。そういう課やそういうことができる職員をどんどん増やしてほしい。

(委員長)

本来は市民参画というのが、栗東市全体で進んでいく大きな方針のもとでそれぞれの場面で協働が進んでいくのが理想であるため、各課、各部で事例があるのは喜ぶべきことかもしれない。全庁的に進んでいる事業については自治振興課で把握していただき、協働していないところに情報提供していかれると、良い競争が生まれて新しいものが作りだされてい

くような、ともに創造する要素につながっていくといいと思う。そんな工夫も次の計画づくりの中で考えてみてはいかがかと思う。

(委員)

栗東市ボランティア観光ガイド協会の一員として一つ申し上げる。私たちは自分たちでチラシを印刷したり、コミセンにチラシを置いたり、情報発信をして企画ガイドをしている。県外からも多くの人に来てくれて、栗東市の観光の一助になっていると自負している。しかし、他市町では、それぞれの観光協会や市の担当課の協力が非常に大きく、募集の名前なども観光協会や市の担当課が入っていたりするが、栗東市は独立した名前では出せない。観光協会などに提案しても受け入れてもらえない。他市町と同じようにもっと協力していただきたい。

(委員長)

真っ先に進めていただいてもいい例かもしれない。どうぞご検討いただきたい。

(委員)

連携支援型の相談中の団体がどんな団体かわからないが、コミュニティセンターのセンター長会議で提案していただいてモデル学区から手が挙がるようにしていただきたい。そしてその中で、支援とは何なのか。職員が各種団体や自治会にする支援とは何なのか、答えは1つではないため、そういった勉強の機会にさせていただけたらいいのではないか。

(事務局)

最終的にどこの課とも連携できなかった場合、最終手段として自治振興課がコミセンに提案内容を紹介していこうかと思っていた。一つの課が直接話を聞くとやっているため、協議をして、それでもうまくいかない場合には自治振興課としてコミセンと事業展開したいとは思っている。コミセンを中間支援として置いているため、それも一つの方法である。

(会長)

協働担当課が窓口でもいいと思うが、実際に進めていくのはコミセンに下ろしてモデル学区を選んでいただけたらと思う。

(事務局)

検討している課と事業者との協議に自治振興課も出席するため、提案していこうかと思う。

(委員長)

コミセンや地振協との連携を念頭に置いて進めていただけると新しい案が生まれてきそうな気がする。

6. その他

(委員)

市民団体アンケートを見ていると、補助金は必要ないと回答している団体が半分あって驚いている。自分たちが今までと同じように活動するのであれば、補助金は必要ない。ただ、皆さんがおっしゃったように、仲間を増やしたい、若い人や次の世代に継承していきたいと思ったら、何か違う動きをしないといけなくなる。先ほど補助金を使ってメンバーが増えたとおっしゃっていたが、そういった実績を皆さんに報告して市民活動の補助金だが、使い次第では、団体がこのように変われますよと発信していくのもいいのではないかと意見を述べさせていただく。

(委員長)

PRしないことには始まらない。今山ほど情報が流れていて、その中から役立つ情報を分けて見つけるのがとても大変である。行政としてもメリハリをつけて、ターゲットを決めて戦略的に情報提供していただきたい。単にホームページに掲載しました、チラシやパンフレットを作りましたでは届かない。改めてお願いする。

7. 閉会 あいさつ

(副委員長)

長時間にわたり、ご協議いた抱き感謝申し上げます。自治会も変わり目ということで、高齢化して動けないような自治会や町内が増えている。自治会活動の後継者として次の世代が少ないと感じている。今日の協議を聞いていると若い世代がまちづくり事業の必要性を感じて、どんどん出てくるような可能性も感じた。今後も皆さんと一緒に頑張っていきたいと思う。